

# 富山大学和漢医薬学総合研究所 民族薬物資料館 ニュースレター



## 着任のご挨拶

2018.9  
第20号

特命准教授 毛利 千香



民族薬物資料館の特命准教授に着任にあたりご挨拶申し上げますと共に、生薬と、私がこの7年間研究してきました色材との関係について述べたいと存じます。色材というと、どのようなものが思い浮かぶでしょうか。紫色、赤色、黄色の原料である紫根、茜や紅花、黄柏や山梔子などは、どれも日本薬局方に収載されている生薬です。江戸時代の武士の礼装である袴の染色には、ヌルデの虫癭（虫こぶのこと）である五倍子ごばいしが用いられていました。五倍子はお歯黒の原料としても知られていますが、これはタンニンを豊富に含有する生薬です（ちなみに、和漢医薬学総合研究所の建物の西側にはヌルデが数本植わっていますが、2018年9月現在虫癭は見あたりません）。こちらに着任する直前の勤務先が美術館の科学分析部だったと言うと、随分と畑違いのところにいると思われることが多いのですが、



ヌルデ（和漢医薬学総合研究所西側）

生薬と色材には共通する原料植物が多くあるため、その点では私は美術館での勤務に違和感はありませんでした。

1つご紹介したい染織品があります。「富田金襴」という名

物裂めいぶつざれは、茶道のたしなみがある方々には馴染み深いかもしれません。名物裂とは、掛物の表具や茶入れなどを入れる仕覆しふくなどにし、茶人が珍重した中国（元・宋代）渡来の裂きれのことです。フリーア美術館所蔵の茶壺「千種」の口覆くちおおいである富田金襴の、黄色味がかった赤色を見た際には、これまでに未報告の色材が使われているとは思ってもいませんでした。赤色の原料となる天然物は世界的にみても種類がごく限られているからです。その後、植物の加工方法を変えて色調の変化を観察したり、考えられる色材原料として中国や日本に成育する昆虫や地衣類の色素分析をしましたが、今のところ富田金襴の色素と特徴が合致する天然物は見つけられないままです。

この民族薬物資料館にその手がかりが見つかる、というのは虫のいい話かもしれません。しかしながら最初に申しましたように、生薬と色材はその起源を一にすることが多いのです。約3万点ある資料館の収蔵品を一つ一つ調べていけば、何か手がかりがつかめないとも限りません。

ちなみに「千種」の口覆と同じ反物から切り取られた裂は、東京国立博物館と京都国立博物館に保管され (<http://webarchives.tnm.jp/imgsearch/show/C0002018>, [http://syuweb.kyohaku.go.jp/ibmuseum\\_public/index.php?app=shiryō&mode=detail&data\\_id=5779](http://syuweb.kyohaku.go.jp/ibmuseum_public/index.php?app=shiryō&mode=detail&data_id=5779))、元の反物は加賀前田家によって所有されていたことが、美術史家の研究で近年明らかにされています。

# 活動報告と ご来館の記録

## ひらめき☆ときめきサイエンスを開催

### 和漢薬ってこんなに身近にあったんだ！

～生活に溶け込んでいる薬用植物～

平成 30 年 8 月 4 日（土）に、日本学術振興会からの委託による研究成果の社会還元・普及事業（ひらめき☆ときめきサイエンス）として、中学生高校生を対象とした体験プログラム「和漢薬ってこんなに身近にあったんだ！～生活に溶け込んでいる薬用植物～」を実施しました。全国各地から 21 名の参加があり、生薬の医薬品としての本来の用途の他、食品や染料などにも使用される生薬があること、また生薬の原植物が身近に数多く生育していることを学ぶ良い機会になったと思います。近郊に生育していた

ヨモギやクズを講義室に持ち込んでの解説、紅花での染色体験、素材の薬効を学びながらの薬膳弁当、資料館展示室の見学、漢方薬を構成する生薬の鑑別、9 種類の生薬から好みで作るブレンドティーと、盛りだくさんの内容でしたが、参加者それぞれが生薬の味や香りを楽しみ、違いがあることに興味を持ち、またあるときはこだわりをもって実習に取り組み、実施者としてとても新鮮に感じました。会が始まるまでは、生薬に興味を持ってもらえるのか、理解してもらえるのか、正直なところ心配だったのですが、会の最後で発表していただいた感想や、実施後のアンケートからは、参加者それぞれが生薬に対する知識や理解が深まった様子が見受けられ、こちらの心配は杞憂であったことがはっきりしました。これも本物の生薬が持つ、効能の 1 つかもしれません。写真は、本プログラムで実施された染色実習、漢方処方鑑別、展示室見学、オリジナルブレンドティー作成の様子です。



集合写真



木綿布を紅花抽出液で染色中



紅花で染色した木綿布を乾燥



漢方薬鑑別中



展示室にて桂皮の解説を聞く



用意されたお茶



9種類のお茶を味見し、オリジナルティーを作成

## 来館の記録



6月20日 JICA ミャンマー研修団



8月6日 優品国草連盟 (中国)

当館が管理・提供するデータベースの 1 つ、証類本草に関するものをご紹介します。「本草」とは薬用になる動植物の総称で、前漢末期に使われ始めた用語と考えられています。「証類本草」は中国で 12 世紀に刊行された本草書で、1～12 世紀頃までの中国歴代の本草書の内容を網羅しています。このデータベースでは現在 129 品目の生薬について原文と日本語全訳を公開しています。温故知新と申しますが、本草書の記載文や図が研究の元となり、新たな発見につながることも多々あります。生薬に関する研究促進が目的のデータベースですが、描かれている図を眺めるところからでも、こうした本草書に少しでも多くの方に慣れ親しんでいただくきっかけになれば、と思っております。秋の夜長に、証類本草から 12 世紀の生薬に思いを馳せてみるのはいかがでしょうか。

<https://ethmed.toyama-wakan.net/honzou/> (ユーザー登録が必要です。登録無料。)

## 民族薬物資料館が提供するデータベース 証類本草

夏枯草 かごそう 十一巻 草部下品之下  
 神農本草経 夏枯草は、味が苦、辛、性が寒。名医別録 夏枯草は無毒。  
 神農本草経 寒熱、寒熱と発熱が交互に現れる熱傷、瘧疾（結核性の肺病、頸部にできる慢性の炎症性の疾病、鼠瘻、癰疽、首にできる結核性の腫物）、頭痛を主り、瘧（腹部に塊のようなものがあって痛む病）を破り、瘻（瘻、結核、結核による瘻、脚腫（水腫病にあらわれる病）、瘰癧、瘰癧の強いもので肢節の痛む箇所が一定し長引くもの）を散じ、身を軽くする。別名に夕句、乃東がある。  
 名医別録 別名は燕曲、蜀郡の川谷に産する。四月に採取する。  
 雷公薬対 土瓜を使（寒）とする。  
 唐本注 新修本草 夏枯草は平地の沢に生じる。春の始めに復元に似た葉が生じ、四月に穂が出、花は紫白色で丹参に似ており、花は五月に枯れる。処々に有る。  
 図経曰 図経本草 夏枯草は蜀郡の川谷に産する。今は河東、淮、浙州郡にも有る。冬至後に生じ、葉は旋復に似ている。三月四月に穂になって花が開く。紫白色で丹参の花に似ており、子を結んでまた穂となり、五月に熟して枯れる。四月に採取する。  
 簡要済衆 肝虚で目睛が疼き、冷涙が止まらず、筋脈が痛み、目蓋明怕日（目がまぶしく光線を嫌う）であるを治す。補肝散は、夏枯草半両、香附子一両を共に末とし、毎服一錢分を煎茶（ろうぢや）で整えて、随時服する。  
 本草衍義 夏枯草はこれを鬱臭と謂う。秋から生え冬を経ても凋まず。春に白い花が開き、中夏に子を結び、遂に枯れて、古方の丸は焼いて灰にし煎薬と合わせる。初生の若い時には葉となり、人がこれを食べる。水に浸して洗って悪いものは捨て、苦水を取り去る必要がある。瘰癧、鼠漏を治す。



第33回民族薬物資料館一般公開ご案内 10/21 (日)

**第33回 富山大学 和漢医薬学総合研究所 民族薬物資料館 一般公開**

- 公開日時：平成 30年10月21日(日) 10:00 ~ 16:00
- 一般展示室 説明時間：10:30, 15:00
- 場 所：杉谷キャンパス 和漢医薬学総合研究所棟 民族薬物資料館 (U5)

**特別展示**  
**生薬とその環境 - 近年50年の変遷 -**

天然物に由来する生薬は、私達の健康維持には欠かせないものです。生薬の原料となる野生品の生育環境、栽培品をめぐる状況、資源保護や安定供給のための政府の対策などは年々変化し、生薬の品質に影響を及ぼします。50年以上前に発売された当館の所産品と共に、生薬とその環境の変遷をご紹介します。

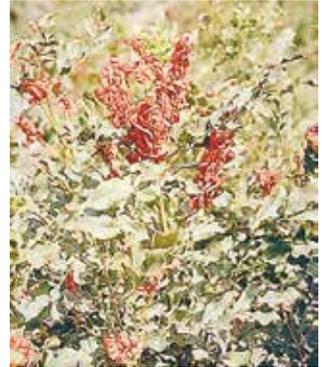
**特別講演 山本 豊先生 (株) 栃本天海堂**  
 13:30~15:00 民族薬物資料館3階  
**「生薬の流通の現状と変遷について」** 参加：無料

TEL & FAX: 076-434-7150  
 E-mail: museum@inm.u-toyama.ac.jp  
 お気軽にご参加ください。

富山大学医学薬学祭に合わせ、本資料館では展示室の一般公開、ならびに特別展、特別講演を開催いたします。特別展示は、生薬の代表ともいえる人参と甘草について、近年50年間の生薬の形態の変化と、それに影響を及ぼした様々な環境の変化について展示いたします。また、特別講演には(株) 栃本天海堂の山本豊先生をお招きし、「生薬の流通の現状と変遷について」という演題で午後1時半からご講演いただきます。参加申込は不要、入館無料です。



汾州甘草



アクセス

バス

富山きときと空港から富山駅まで約20分、富山駅からバスで約30分。

タクシー

富山駅から約20分。富山きときと空港から約20分。

自家用車

北陸自動車道「富山西IC」から約4分、「小杉IC」から約20分。



富山大学 和漢医薬学総合研究所 民族薬物資料館



九州人参

Address 〒 930-0194 富山県富山市杉谷 2630  
 E-mail museum@inm.u-toyama.ac.jp  
 TEL/FAX 076-434-7150  
 URL http://www.inm.u-toyama.ac.jp/mmmw/index-j.html